

2024年度茨城大学模擬授業：農学部

No.	授業科目名	学部・学科等	授業概要	分類番号	担当教員	模擬授業タイトル	研究分野	キーワード	オンライン対応	50分前後授業対応	主な対象学年	SDGs該当番号	模擬授業可能曜日時間帯	備考
1	食品の科学	<p>私たちの生命維持に欠かせない「食」について、食資源としての畜産物の利用、加工・保藏・流通・衛生など食の安全性、食品成分の機能など、様々なキーワードに焦点をあて、わかりやすく解説します。</p>	A1	上妻由章	酵素と機能性食品の話	食品分子機能学	食品機能・酵素	○	○	全学年	3	曜日は応相談午後		
			A2	白岩雅和	私たちはなぜ毎日食事をするの？	食品生化学	食品のもう3つの機能と健康	○	○	全学年	3,12	月火の午後		
			A3	鈴木穂高	身近な食中毒／フグ毒の話（どちらか）	食品衛生学	食中毒菌・魚貝毒	△応相談	○	全学年	2,3,12,14	水、金 午後		
			A4	長南茂	微生物と酵素のはなし	食品生化学	微生物・酵素	○	○	全学年	3	水 午後		
			A5	豊田淳	脳とこころの健康を維持する食	動物生命科学	食・脳の健康	○	○	全学年	3	月、午前		
			A6	中村彰宏	食品加工における食品機能素材の役割と品質評価	機能材の開発	食品の物性・加工	○	○	全学年	3	前期：月、金午後 後期：金午後		
			A7	宮口右二	食肉製品の品質向上・未利用食資源の有効活用	畜産物科学	畜産物・未利用資源	○	○	全学年	2,3,14	月、午前		
			A8	鎌田孝	食品の安全を見守る“食品分析”	食品分析化学	食の安全・食品の化学分析	△応相談	○	全学年	3,9,12	月火木の午後		
2	バイオサイエンス入門	<p>藻のヒミツ教えます！ 藻の探索・遺伝子・有用物質生産開発</p> <p>動物との共生と生物多様性</p> <p>食欲と生殖の関係を探る</p> <p>乳腺：哺乳類の子育てを支える器官</p> <p>植物の環境応答－化学と生物学の視点から－</p> <p>人類の生存は様々な生物の生命活動によって支えられています。この授業では、動物・植物・微生物による生命現象の科学やそれを応用した技術について、授業担当者の専門に関連した内容を分かりやすく紹介します。</p>	A9	朝山宗彦	藻のヒミツ教えます！ 藻の探索・遺伝子・有用物質生産開発	藻の分子生命科学	飲食品、化粧品、医薬品、燃料生産	○	○	全学年	3,7,9,13	木曜の午後		
			A10	上塙浩司	動物との共生と生物多様性	動物保健衛生学	動物の健康、生物多様性	○	○	全学年	14, 15	前期は要相談、後期は水木		
			A11	大久保武	食欲と生殖の関係を探る	動物科学	ホルモン、生殖の科学	○	○	全学年	3	火、金 午後		
			A12	金澤卓弥	乳腺：哺乳類の子育てを支える器官	動物細胞遺伝学	乳汁分泌、泌乳、器官形成、ホルモン、細胞成長因子	△応相談	○	全学年	1,2	前期・後期：木曜日午後		
			A13	小島俊雄	植物の環境応答－化学と生物学の視点から－	生物化学	生命的化学、大学で学ぶ生化学	○	○	全学年	15	応相談		
			A14	鈴木義人	植物ホルモンを介した生物間相互作用	化学生態学（天然物化学）	植物ホルモン、生物間の化学的相互作用	○	○	全学年	15	前期：月～木 後期：水、木		
			A15	戸崎浩明	天然毒から農薬・医薬の開発へ	有機化学、天然物化学、生物有機化学	生物毒の利用、化学合成と薬	○	○	全学年	2,3,9,12	木 午後		
			A16	中平洋一	植物バイオでつくる「食べるワクチン」	植物分子生物学	植物バイオ、遺伝子組換え	○	○	全学年	2, 3, 9, 14	月、水 午後		
			A17	成澤才彦	微生物が花を咲かせる！？	微生物生態学	農業を救う菌、共生	○	○	全学年	1,2,8,13,15	月、火、金の午後		
			A18	西澤智康	微生物と気候変動	環境土壤学、地圈生態学、応用環境微生物学、微生物地球化学	土壌微生物生態、微生物代謝機能、物質循環	○	○	全学年	2, 7, 13, 15	後学期 火・木 午後		
			A19	西原宏史	低炭素社会に貢献する水素細菌	応用微生物学	微生物と水素	○	○	全学年	7, 9	木 午後		
			A20	長谷川守文	植物の自己防御物質の化学	天然物化学	有機化学、植物、植物病原菌、抗菌性物質	○	○	全学年	2,9,15	前期：木 後期：火金（それ以外の曜日も応相談）		
			A21	安江健	家畜の行動を活用する－歴史的意義と現代的構築	畜産学・家畜行動学	動物の行動とその利用	○	○	全学年	2, 3, 15	月、木の午後		
			A22	小針大助	ヒトと動物の関係を考える	動物行動学・動物管理学	アニマルウェルフェア・人と動物の関係	○	○	全学年	2,3,12,13	午後		
			A23	吉田悠太	味覚の科学	動物生理学	嗜好性、生活習慣病、バイオセンサー	○	○	全学年	2,3,9	通年可、要相談		

2024年度茨城大学模擬授業：農学部

No.	授業科目名	学部・学科等	授業概要	分類番号	担当教員	模擬授業タイトル	研究分野	キーワード	オンライン対応	50分前後授業対応	主な対象学年	SDGs該当番号	模擬授業可能曜日時間帯	備考	
3	作物生産の科学	農学部地域総合農学科	作物生産は、人が植物の力を借りて太陽エネルギーを食糧として収穫する営みです。農業科学では、高品質で安全な作物を持続的に生産し利用するために、植物やその栽培環境について研究することで様々な技術が開発されています。これらの素晴らしい技術の一端を最新のトピックスを交えて平易な言葉で紹介します。	A24	浅木直美	身近な有機質肥料と作物の栽培	作物栽培学	身近な有機質肥料と作物の栽培	○	○	全学年	2,9,13,15	応相談		
				A25	井上栄一	植物の開花生理と作物栽培の関係	園芸学	生殖成長、栄養成長、開花ホルモン、フロリゲン	○	○	全学年	2,9,13,15	応相談		
				A26	菊田真吾	農作物生産を支える農業の役割	農業学	農業の今昔と未来	○	○	全学年	2,9,12,13,15	応相談		
				A27	北嶋康樹	食品への異物混入対策としての害虫管理	応用昆虫学	食品害虫、異物混入、食品工場	○	○	全学年	2, 12, 15	応相談（火曜不可）		
				A28	久保山勉	植物の遺伝資源と育種	植物遺伝育種学	植物の遺伝資源と育種	○	○	全学年	2,9,13,15	前期：火、木 後期：木曜日の午後		
				A29	佐藤達雄	植物の免疫システムの仕組みと免疫活性化技術	植物保護学	植物免疫	○	○	全学年	2,9,13,15	応相談		
				A30	迫田翠	作物生産現場から考える気候変動	作物学	水田、物質循環、持続可能性、適応と緩和	○	○	全学年	2, 13, 15	火、木、金の午後		
				A31	七夕小百合	作物生産を支える土壌と肥料	土壌肥料学、植物栄養学	土壌、肥料、植物栄養	△応相談	○	全学年	2,9,13,15	応相談		
				A32	中島雅己	環境にやさしい植物病害の防除	植物病理学	農業と植物の病気	○	○	全学年	2,9,14,15	応相談		
				A33	古谷綾子	植物病原細菌と遺伝子工学	植物病理学	植物病原細菌、バイオテクノロジー	○	○	全学年	2,9,14,15	応相談		
				A34	望月佑哉	野菜の収量とおいしさ	青果物利用学	収量、品質、鮮度保持	○	○	全学年	2, 3, 9, 13	応相談		
				A35	伊丹一浩	フランス・アルプスの農業と地域の歴史	農業史・環境史	フランス・アルプスの農業と地域の歴史	○	○	全学年	15	応相談		
				A36	内田晋	エネルギー産業としての農業	環境経済学	農業とエネルギー	○	○	全学年	2,7,9,15	前期：月、後期：可		
				A37	黒田久雄	これからのお水田耕作について	農業水利学	農業活動と環境	○	○	全学年	2,6,13,15	夏季休業期間の8月～9月、10～11月可。応相談		
4	地域との共生を考える	生命を育む基盤である農村地域や農地、水、地域環境の保全と再生、防災・減災や、さらには地域の問題の解決について、その理論と実践の一端を、各教員がそれぞれの専門の見地から平易な言葉で紹介します。		A38	小松崎将一	フィールドで学ぶ有機農業	有機農業	フィールドで学ぶ有機農業	○	○	全学年	2,13,15	応相談		
				A39	長澤淳	データで見る世界農業	農業経渉学	データベース、農業、経済	○	○	全学年		応相談		
				A40	西川邦夫	日本の稲作の生き残り戦略	農政学	米・米加工品の輸出	○	○	全学年	8, 9	応相談		
				A41	前田滋哉	農業水路の流れと魚類生息環境の保全	生態水理学	農業水路における水の流れと環境	○	○	全学年	3, 14, 15	月		
				A42	牧山正男	環境にやさしい水田 環境にきびしい水田	農地環境工学	水田農業と環境との関わり	×	○	全学年	7, 13, 15	応相談		

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

